

医療法人水の木会 下関病院 広報誌

ステップ・アツプ

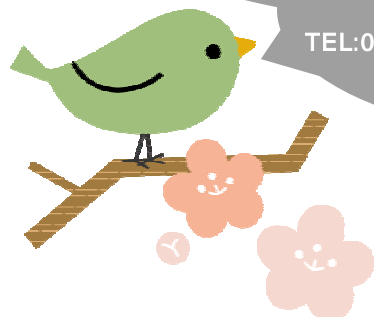
VOL.17

発効日：平成22年3月16日

発行者：下関市富任町6丁目18-18

下関病院 広報委員会

TEL:083-258-0338 FAX:083-259-8876



もくじ	
当院のACT活動について	1
認知症病棟の生活技能訓練	2
グループホームのご紹介	3
行事報告・スタッフのわ・編集後記	4

当院のACT活動について

しろお としこ
地域診療部長 城尾 淑子

ACTとは Assertive Community Treatment の頭文字を取ったもので、日本語では「包括型地域生活支援プログラム」と訳されています。重い精神障害を抱えることで、長期入院や頻回入院を余儀なくされていた患者様が、住みなれた地域で安心して生活していけるように、多職種チームが援助するプログラムです。

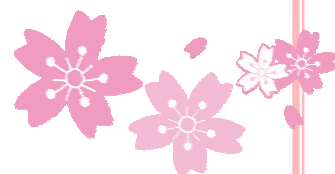
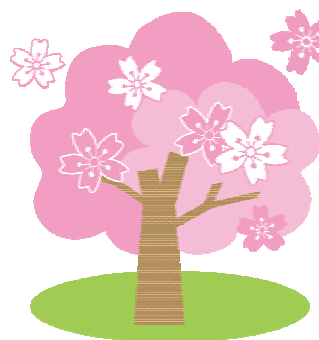
当院では、患者様の退院後のフォローアップとして、外来通院、訪問看護、デイ・ナイト・ケア、グループホーム、相談電話など医療と福祉の両面からサービスを提供しています。しかし、怠薬や内的・外的ストレスから状態が不安定となり、外来受診・デイケア通所ができない、本人の状態悪化で家族が困っている、地域での生活が送れなくなった等の様々な危機的状況が起こりうる事があります。それら危機的状況の際に、ご家庭等から情報を外来が受け、ACT活動が適していると判断した時に、危機的介入としてACT活動を行っています。

ACTのメンバーは、精神科医師、看護師、精神保健福祉士（PSW）、臨床心理士等の職種で構成されています。具体的な例を挙げますと、ご家庭で患者様が外来を受診したくないと言われた時に、看護師、心理士、精神保健福祉士等の多職種チームがお家に伺い、患者様本人を説得して受診していただくお手伝いをさせていただくことができます。この活動により、退院された患者様、入院中に外泊をしている患者様やご家族も安心して地域で暮らすことが可能になります。また、当院以外の行政機関とも連携を取りながら地域での生活支援を行っています。



【当院のACT担当メンバー】
（左）山本PSW、（中央）城尾地域診療部長、
（右）沢登看護部長

認知症病棟では、生活機能回復訓練を行っています。



老年期病棟 師長
やまもと まさみ
山本 眞佐美

昨年10月に認知症病棟が立ち上がり、早くも5ヶ月が過ぎました。介護力を強化した新しい看護体制となり、これまでと視点を変えた看護・介護の提供を行うことなどスタッフの意識改革にも時間を要しましたが、当初は私自身も師長として病棟の管理・運営についても不安や戸惑いがありました。

現在も体制は充分とはいえないかもしれませんが、職種間での連携を深め、患者様の周辺症状の改善は勿論のこと、個々に応じたりハビリや退院援助を行い、次なるステップに繋がられるように努めたいと考えています。



作業療法士
ささき けんすけ
佐々木 健祐

現在他職種の方たちと共に土台から病棟を作り上げている最中です。実施するリハビリテーションの内容もこれまでと変更になりました。

大きく変わったものとして、「生活機能回復訓練」があります。これは個々の退院先で必要となる生活能力を維持・向上させるもので、その中のプログラムも様々なものとなっています。基本的に日常生活全般を対象者のリハビリテーションと捉え、普段のレクリエーションなどだけでなく、回想法や身体機能やADL能力の維持・改善するような取り組みも病棟スタッフ一丸となって積極的に行っています。

グループホームのご紹介

当院ではこれまで運営しておりましたグループホームを、障害者共同生活援助事業として、平成22年4月1日付けで社会福祉法人に統一いたします。昨年加わった桜荘を含め、今回新体制となったグループホームの紹介をさせていただきます。



松風荘



楠荘



桜荘



椿荘

「松風荘（男性：定員10名）」「楠荘（男性：定員5名）」「椿荘（女性：10名）」「桜荘（女性：定員4名）」と4つのホームが稼動しています。自立した生活を目指す方に住居を提供し、日常生活、日中活動、余暇活動の支援を行っています。また、地域の中で安心した生活を送ると共に社会参加を促します。個別の支援計画に基づき、共同生活を送ることで社会生活技能の向上を目指しています。

男性利用者は26歳から62歳、女性利用者は31歳から67歳までの方々が入所しており、就労や単身生活、家族との同居などの目標に向けて、服薬管理・金銭管理など自己管理能力の向上を目指し、日々の生活を送っています。世話人さんと料理を作ったり、スタッフとの茶話会を行ったり、お花見や食事会に出かけたりと、家庭的な雰囲気作りを心掛けています。

日常生活における悩みや相談事には、利用者さんと一緒に行動し、ご家族のご意見も取り入れていながら、解決に向け取り組んでいます。また、朝・夕のミーティングや月に1度のグループホームミーティングを通じてコミュニケーションを深め、将来の“夢”などを話していただき、お互いの“夢”に向かって可能性を広げていくことの出来る『関係作り』を行っています。今後も、利用者さん主体の生活のなかで、各自の“夢”が実現するように、『対等な関係』で職員一同取り組んでいきたいと思ひます。

グループホーム利用に関しては、お気軽に担当職員にお問い合わせ下さい。

きうち まりえ かねだ つねのり
精神保健福祉士 木内 麻理恵 ・ 金田 津音紀

男性ばかりの集団で殺風景とお思ひかもしれませんが、どうしてどうして和気あいあいのホームです。入浴の順番も毎日ジャンケンで決めるユニークさです。とは言え、時にはトラブル発生という自体も生じますが、優秀なPSWさんの仲介で無事解決しています。

困った様な嬉しい事と言えば、グループホームが気に入って、もっと此处で生活したいという人が何人もいらっしゃる事です。

管理人の私としては、とにかく此处が居心地の良い場所であると一人一人が感じて下さる事が何よりの働き甲斐です。



管理人（松風荘・楠荘）

さかた けいこ
佐方 圭子

平成21年11月1日付けでグループホーム椿荘・桜荘の管理人という大役を引き受けて、夢中で毎日やってきましたが、早や5ヶ月目になります。

今は毎日楽しく勤務させてもらっています。

グループホームの皆様の良き話し相手（おばちゃん）になれるよう頑張りますので宜しくお願いいたします。



管理人（桜荘・椿荘）

まつだ かずこ
松田 和子

行 事 報 告

11月

【ふれあいフェスティバル】

本年度は新型インフルエンザ流行により、規模を縮小し、安岡公民館にて講演会のみ開催しました。講演会は杉本正志臨床心理士による「子どものころについて思うこと」をテーマに行いました。思春期の難しい年頃の子どもの話にご来場頂いた方から、講演後には熱心な質問もあり、充実した一時となりました。

一方、例年実施していたバザーを楽しみに来場された地域の方もいっしょに、ご迷惑をおかけしました。また、ステージ出演をご了承して頂いていたみそら保育園、下関工業高校吹奏楽部の皆様にもステージ企画の中止で、ご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

これからも地域の皆様との交流を深められるよう、病院行事を継続していきたいと思ひます。



12月

【クリスマス会(12月22日)】

各病棟有志による出し物では合唱やダンス等の披露により、場の雰囲気が盛り上がり、素敵なクリスマス会となりました。

【冬祭り(12月29日)】

毎年恒例、餅つきを行いました。重たい杵を力一杯振り、皆で協力して沢山の餅を作りました。大きな鏡餅は病院・豊松苑にお供えし、午後からはついた餅でぜんざいを美味しく頂きました。

【連載】スタッフでつなげる、趣味のはなし。

ふじた さとし

【藤田 暁士 事務部長】よりスタートです！

趣味に関するエッセーとのことですが、近年はなかなかまとまった時間が取れず、もっぱら車や時計の雑誌を眺めることや、ネットオークションを覗くのが唯一の趣味となっています。機械物へのこだわりは女性には理解できないかもしれませんが、これまでも車にはかなりの費用をつぎ込んでいます。

とりあえず、四月から長女が大学で家を離れることになり、我が家では三人の子供が手を離れるまでは贅沢禁止令が公布されましたが、いつかは憧れの1台(車名は秘密ですが)を購入したいと夢見ているところです。

さわと ゆういち

次回は【沢登 勇一 看護部長】が登場です。おたのしみに！

新連載！



平成21年度も、もうすぐ終わりを迎えようとしています。今年度は医療機能評価の更新、認知症病棟の設置など、さまざまな話題をお伝えしてきました。

来年度も、皆様によりいっそう楽しんでいただける広報誌を目指して、頑張っていきたいと思ひます。